Corporate Information

会社概要（2023年9月30日現在）

社名	アイビーシー株式会社
英文社名	IBC: Internetworking & Broadband Consulting Co.,Ltd.
所在地	・本社 東京都中央区新川一丁目8番8号 ・西日本事業所 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 （西日本事業所は2023年12月4日に移転いたしました）
設立	2002年10月16日
資本金の金額	443,230千円
事業内容	► ITシステム性能監視ツールの開発／販売／サポート ► ITシステムの性能評価サービス ► ITシステムの設計／構築、コンサルティング ► IoTセキュリティ基盤サービスの開発／提供 ► 各種機器、ソフトウェア販売
連結子会社	株式会社サンデーアーツ
持分法適用関連会社	株式会社NSD先端技術研究所

役員（2023年9月30日現在）

代表取締役社長（CEO）	加藤 裕之
取締役副社長（COO）	小田 成
取締役	太田 祐樹
取締役（社外取締役）	髙木 弘幸
取締役（社外取締役）	梶本 繁昌
取締役（社外取締役）	西田 光志
取締役（社外取締役）	天野 信之
常勤監査役	山本 祥之
監査役（社外監査役）	望月 明彦
監査役（社外監査役）	簗田 稔

ホームページのご案内

当社ホームページでは、会社概要や事業内容の基本情報をはじめ、IR情報や製品情報などの最新ニュースやプレスリリースほか、様々な情報を公開しております。

お知らせ

イベント出展のご案内、新製品や新商品など様々な情報を更新しております。

IRニュース

株主・投資家向けに、プレスリリースや適時開示、決算短信などを公開しております。

トップページ
https://www.ibc21.co.jp/

IR情報
https://www.ibc21.co.jp/ir/

プロダクト
https://system-answer.com/

VEGETABLE OIL INK

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

証券コード 3920

IBC BUSINESS REPORT

2023年9月期

2022.10.1 ▶ 2023.9.30

共感を創造する企業として アイビーシーが掲げる理念と価値基準

2022年に設立20周年を迎えたアイビーシーでは、企業のありたい姿として「IT障害をゼロにする」というミッションを定めました。

ロゴマークの3つの交差（クロス）は、アイビーシーの企業理念のキーワードである「社会」「企業」「人材」のつながりを象徴しています。人や社会が利用するITシステムだからこそ、お客様をはじめとするアイビーシーに係わるすべての方々を大切にし、事業を成長させる熱意が込められています。

2023年2月より、小泉今日子氏をイメージキャラクターとして採用しております。

『IT障害をゼロにする』を合言葉に

代表取締役社長（CEO）
加藤 裕之

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。ここに第21期（自2022年10月1日 至2023年9月30日）の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における我が国の経済は、新型コロナウイルスに係る行動制限の解除を受けて社会活動が回復傾向となり、インバウンド需要が期待されています。また、昨年からの半導体不足も解消されつつあり、今後は社会全体でDX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）がさらに加速していきます。最新技術の活用によって社会全体が変革を迎える中、IT企業に求められる大きな役割と期待に、当社はこれからも応え続けてまいります。

当社は「IT障害をゼロにする」をミッションとして掲げています。お客様の事業への貢献を果たすべく、営業部門・事業部門が一体となり、業務に邁進しております。

アイビーシーを取り巻く事業環境①
「IT障害をゼロにする」ための商品強化

第21期は「IT障害をゼロにする」ための製品開発やサービス強化を数多く推進してまいりました。

具体的には、製品開発面では当社主力製品であるシステム情報管理ソフトウェア「System Answer G3」で、障害の可能性を事前に予測して対処を図る機能（将来予測オプション）や、仮に障害が起きた場合に迅速な対処をおこなうための機能（トラブルシューティングアシスタント機能）を開発しました。

また、最近ではスマートフォンでの決済やWeb会議参加が増加している状況を鑑み、ユーザーが体感しているレスポンスを監視する機能を開発しました。

これらの機能はリリース以降数多くのお客様にご利用いただき、ご好評をいただいております。

また、サービス強化につきましては、24時間365日の有人監視サービス「SAMS」において、複雑化したマルチベンダー環境下での障害やランサムウェア被害に対する対応をアイビーシーの専門スタッフがおこなう「IT障害119レスキュー」サービスを提供いたしました。

一例として、昨年度、当社のお客様がランサムウェアに感染した際、私たちの技術者がお客様と一体となってランサムウェアの駆除と一刻も早い業務の再開に奔走し、対応させていただきました。この経験は私たちの「お客様の業務を止めない」「お客様の事業に貢献する」という思いをより一層強くするとともに、この経験を通して私たち自身もノウハウの蓄積をすることができました。

アイビーシーを取り巻く事業環境②

デジタルマーケティング強化

昨年より、お客様に最新の情報をタイムリーに提供することと、新規のお客様に当社のアクティビティをご理解いただくことを目的としたデジタルマーケティングの強化を実施してまいりました。

お客様の幅広い年代層に着目して、小泉今日子氏をイメージキャラクターとして採用し、ホームページのリニューアルに着手しております。

また、難しいITの話題を易しく解釈する新しいWebコンテンツ「デジマケ女子部」から、定期的な情報発信を開始しました。ここでは、知的障害者の雇用問題に取り組んでおられる千葉県のNPO法人「AlonAlon」の胡蝶蘭栽培事業のご紹介をはじめ、社会的課題に対しても広報活動を実施してまいりました。

結果として、Web来訪者数も前年比158%まで伸長し、資料ダウンロード / 問い合わせ数も前年比約200%と大きな成果が出ました。

今期もアイビーシー自身のデジタルトランスフォーメーションを加速化してまいります。

今後の成長戦略

インテグレーション事業を新たな柱に

前年度より、先述のライセンス事業の強化に加え、ネットワークやセキュリティのインテグレーション事業を新たな柱に据え、注力してまいりました。

本分野に進出した背景として、このコロナ禍の3年間で働き方が変わり、リモートでの会議や業務遂行が日本において定着してきたことにより、私たちへの社会的要請が増えてきたことがあります。

具体的にはWeb会議が増加してきたが画像が乱れて資料が見えにくい、音声が途切れて会議にならない等の理由でどこに問題があるのかアセスメントをしてほしいとの要望を数多くいただきました。一件一件具体的な問題箇所の特定と対策をご報告する中で、「課題がわかったのでアイビーシーにまるごと対応してほしい」との要望を数多くいただき、本分野に乗り出すこととしました。

また、従来は会社の中（イントラネット）でのセキュリティを確保すれば十分なセキュリティ対策が図れていましたが、現在は自宅から会社のサーバーにアクセスしたり、個人のパソコンから会社にアクセスする等の利用形態が一般化したことで、ますますセキュリティリスクが増加傾向になってきており、私たちの果たすべき役割も重要になってきております。

ネットワークやセキュリティ分野において、今年度も人材育成のために各種トレーニングを図り、お客様の事業継続に貢献していく所存です。

2024年9月期の業績見直し

当社は、今後も「System Answer シリーズ」のライセンス販売による事業拡大を図るとともに、ネットワークやセキュリティ分野でのインテグレーション事業の強化を図ってまいります。

2024年9月期の連結業績予想といたしましては、売上高2,000百万円（前期比5.2%増）、営業利益220百万円（前期比3.7%増）、経常利益243百万円（前期比3.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益166百万円（前期比135.9%増）を見込んでおります。

配当政策

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題としており、今後の業績の推移や財務状況などを考慮し、また将来の事業展開のための内部留保等を総合的に勘案しながら株主様への利益還元として配当を実施していく方針であります。

前事業年度は創業20周年を迎えたことによる記念として、1株につき金4円でしたが、当事業年度は1株あたり金6円への増配を実施させていただくことといたしました。

また、株主の皆様への利益還元の機会を充実させるため、中間配当と期末配当の年2回実施することを基本方針とし、2024年9月期は中間配当・期末配当ともに1株あたり金4円（年8円）の配当を実施予定です。

新しい期にあたり

長期化してきているウクライナ戦争に加え、パレスチナ問題や米中対立等の世界情勢、日本国内における少子高齢化社会での財政再建、脱炭素社会への転換等、不確定な課題は未だ数多くあります。

平和で平等な社会を目指し、人類の一人一人が幸福になる経済発展を創造していくためには、ITを活用したDXやGXは課題解決の重要な糸口であり、「IT障害をゼロにする」ことは社会の健全な成長のために私たちが貢献できる最重要事項です。第22期もこのミッションとともに、アイビーシー社員一同、誠心誠意力を尽くす所存です。

今後とも私たちの企業活動への変わらぬご支援・ご声援の程、何卒よろしくお願いいたします。

システム性能監視 / 情報管理ツール System Answer® G3

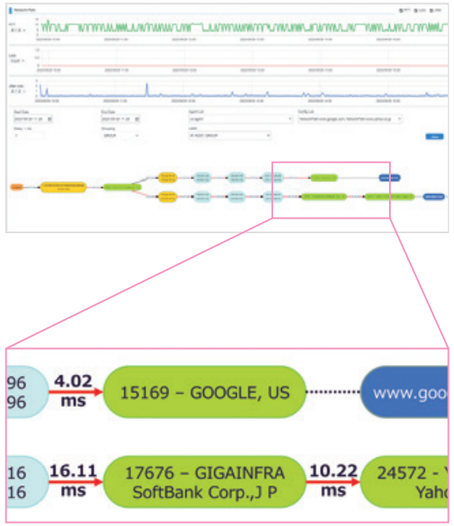
「IT障害をゼロにする」ための精力的な機能拡充

CX（カスタマーエクスペリエンス）監視オプション リリース

ユーザーの「なんだか遅い気がする…」を可視化

ITシステムのユーザーから寄せられる「システムの動作が遅い気がするんだけど…」の声。SaaSサービスの利用やリモートワークが普及する昨今、情報システム部にはこういった問い合わせが頻繁に寄せられます。システム動作を遅くする原因となる通信速度の低下は、社内のLANのせいなのか、社外のWAN（広域通信網）のせいなのか？　この切り分けは非常に難しく、システム部の運用者の頭を悩ませています。

CX監視オプションは、通信経路上の通信速度をマッピングし、どこのサービス上の通信に時間がかかっているのかを可視化します。利用者目線でのネットワーク品質がわかり、システム運用者の取るべき対処が明確になります。



他社製品との連携強化

Systemwalker Centric Manager（富士通株式会社）

Systemwalker Centric Managerは、ITシステムの運用ライフサイクルに必要な様々な支援機能を提供する監視ツールです。

System Answer G3で検知したアラートをSystemwalkerのコンソールへ通知できるため、管理者はシステム全般の状況を把握し、異常事象の発生に迅速に対応できます。

Mist AI（ジュニパーネットワークス株式会社）

Mist AIは、ジュニパー社のクラウドサービスやAIとの連携による優れた無線アクセス機能を提供を強みとする無線LANアクセスポイントです。

MistにAI「Marvis」からデータを収集し、System Answer G3の画面上で確認することができます。Mist側には8日程度しか残らないデータも、G3と連携することにより最大５年分保存できるようになるため、Mistの過去データを使用した分析が実現できます。

JP1（株式会社日立製作所）

JP1は、IT資産の管理や稼動状況の把握、定型業務の自動化、セキュリティ対策などの統合的な管理を得意とするツールです。

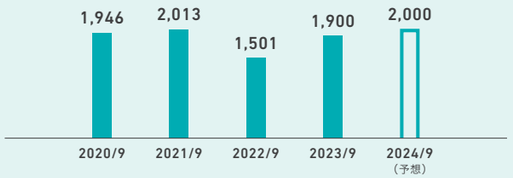
System Answer G3で検知した事象のアラートをJP1へ転送し、他の統合管理情報とあわせたワンストップ管理が可能です。既存のアラート管理画面や運用手順を変更する必要がありません。

NetworkBrain（NTTアドバンステクノロジ株式会社）

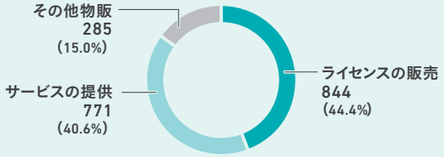
NetworkBrainは、自動的に作成されるマップによりネットワーク構成を可視化し、ネットワーク管理の自動化やトラブルシューティングを手助けするプラットフォームです。

System Answer G3で検知したアラートをフックに、NetworkBrainが監視対象ノードに対して自動でトラブルシューティングを実施します。解析結果（ネットワークの正常性の判断、コンフィグの差分確認、影響範囲をマップで可視化など）をG3のアラートメールで通知します。

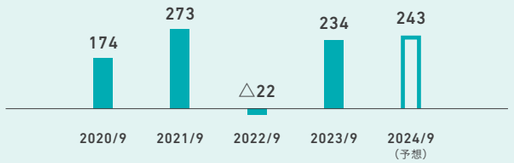
売上高（百万円）



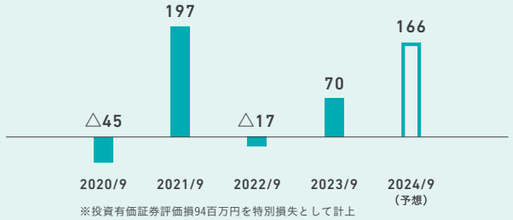
売上高の内訳（百万円）



経常利益（百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）



※投資有価証券評価損94百万円を特別損失として計上

IBC-Integration

お客様のお悩みに寄り添うトータルサポート

「IT障害119レスキュー」リリース

「どこに相談したらよいかわからない」に寄り添う

当社の次世代MSPサービス「SAMS」ユーザー様限定で提供していた、IT障害に関する悩みを解決する緊急障害対応支援サービス「IT障害119サービス」の支援対象を、すべてのお客様に拡大しました。現状アイビーシーとご契約の無いお客様でも、HPのお問い合わせフォームよりご連絡いただけましたら、アイビーシーが全力で対応いたします。

24時間365日受付対応

どなたでもご利用可能

インシデントの初動対応支援

セキュリティ対策ソリューションの強化

サイバーキルチェーン※のすべての段階で対応可能に

クラウド型エンドポイントセキュリティ「CROWDSTRIKE」を製品ラインナップに加えました。これにより、外部からの攻撃を防御するだけでなく、万が一侵入されてしまった後の検知・隔離の対策もご提案できるようになりました。

アイビーシーではツールの提案はもちろん、導入支援や運用支援のメニューもご用意しており、お客様のセキュリティ対策をトータルサポートいたします。

CROWDSTRIKE

※サイバーキルチェーン：サイバー攻撃の段階を表したモデル。攻撃者の一連の行動を軍事行動になぞらえてモデル化。

お客様事例

グループ 80 社の IT セキュリティ基盤をクラウドを活用して構築

このお客様はグループ 80 社の IT リソースを運用監視している情報システム会社で、日々、グループ内のセキュリティ対策を最重要課題として尽力されていらっしゃいます。今回、自社内の複数のデータセンターに設置されていたファイアウォールサーバーを中心としたセキュリティ環境をクラウドに移行し、かつ冗長化を図ったシステムの構築を希望されました。

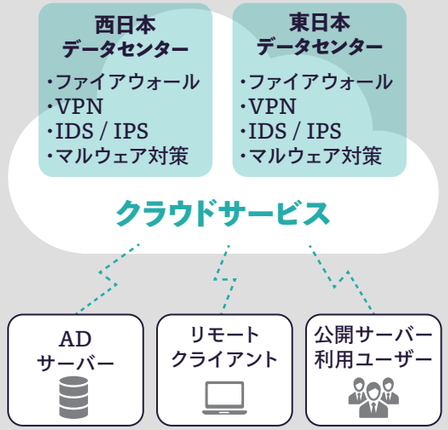
アイビーシーがおこなった構築のポイント

（1）ファイアウォールサーバーを中心としたセキュリティ環境を、管理の手間の削減と、スケーラビリティ（拡張性）のあるクラウド上に構築。

（2）万が一の自然災害対策として、同一クラウド事業者の地域的に離れた複数のデータセンターを活用したセキュリティ環境を構築することで、システム全体としての冗長化による高信頼対策を図る。

（3）複数のセキュリティ機能（ファイアウォール、VPN、IDS/IPS、マルウェア対策等）をプライベート SASE※としてクラウド上で提供。

※SASE（Secure Access Service Edge）：ネットワークとセキュリティを統合し、社内外からアクセスする企業の通信を安全に活用すること



今回の事例はクラウドシフトを実現するとともに、コストを抑えながら冗長性とセキュリティを担保した新たなインテグレーション事例として、多くのお客様環境に活用できます。

「IT障害をゼロにする」をミッションとして、アイビーシーは持続可能な社会へ貢献していきます。

アイビーシーが主に取り組む社会課題

アイビーシーの事業活動と社会貢献

システム性能監視 / 情報管理ツール

System Answer シリーズ

ワークスタイルの変革に伴う、テレワークやWeb会議の活用、クラウドサービスの利用等を支えるITシステムの稼働状況を見える化し、障害が起きた時の問題を迅速に特定し、解決することに加え、お客様のITシステムから日々集約データを収集、蓄積、分析することで、将来の障害を事前に検知して予防を図ることが可能な商品です。

次世代MSPサービス

SAMS

お客様の運用負荷を軽減するサービスです。例えば1人情報システムのお客様、運用はアウトソースして新たにDX事業に関するITリソース強化を図りたいお客様に対して当社が長年にわたり培ったノウハウを活かして、24時間365日有人監視体制で、お客様に代わってITシステムの安定稼働・障害対応・原因究明・分析をサポートするサービスです。

最適なITシステムの構築

IBC-Integration

ITシステムの最適化、運用負荷の軽減にノウハウを持つ当社だからこそできるインテグレーションをご提案させていただきます。特に、繋がるネットワークに向けた現状のボトルネック解析や無線LANの課題、セキュリティを加味した安定したITシステムの構築を提供いたします。

障害者の自立支援活動を応援しています。

千葉県富津市の就労継続支援B型事業所「AlonAlon（アロンアロン）オーキッドガーデン」は、『障害者に月収１０万円を』という目標を掲げ、贈答用胡蝶蘭の栽培事業を展開しています。

就労継続支援とは、身体や脳に障害があり企業の一般雇用枠で就職することが困難な人々が働くことを後押しする制度です。個人のペースに合わせて就業訓練や仕事を行うことができるメリットがありますが、雇用契約を結ぶA型事業所に比べ、重度の障害を持つ方が多く雇用契約を結ばないB型事業所は特に月収が低い※傾向にあります。

※令和3年（2021）のB型事業所の全国平均工賃は月額16,507円。時給に直すと233円。
（参考：厚生労働省「令和３年度工賃（賃金）の実績について 」）

「いつか親が年老いたり世を去ったりして面倒を見られなくなっても、わが子の過ごす未来が開けたものであってほしい。しかし既存の日本の仕組みでは、一定の生活を過ごすための収入が得られない。贅沢ができるほどではなくても明るい暮らしをするための収入を得る仕組みを、私達でどうにか作れないだろうか？」

そんな思いを持った障害のある方々の保護者が中心となってできた団体がNPO法人AlonAlonです。

アイビーシーもこの取り組みに賛同し、障害を持った方々の一助になればと、胡蝶蘭を贈る際にはAlonAlonで購入をしています。

お花の代金はAlonAlonで働く障害を持った方々の所得となります。

AlonAlonで購入したお花には、すべての商品に「障害者が社会に参加する活動に協力しています。」と記載のあるオリジナルステッカーがついています。

株主の皆様の大切な方へのお祝いの際も、AlonAlonで社会貢献のできるお花を贈ってみてはいかがでしょうか？

<採用製品>
System Answer G3

運用支援サービス

あすか製薬ホールディングス株式会社

最適な切り分けでトラブル原因を即座に判別・解決
～ 明確なデータにより社内システム改善をスムーズに実現 ～

トラブルの原因切り分け

G3を導入してすぐに、社内で長らくネットワークが原因だと考えられていた通信不安定の原因を調査しました。しかし予想に反してネットワークのデータに不具合は見られず、次のステップとして周辺機器情報の調査をおこなったところ、セキュリティソフトの動作がPCのCPUを圧迫していたことが判明しました。G3のデータによりネットワーク側には問題が無いと明確に示せたことで、周辺機器の調査に乗りだし、原因特定に繋げることができました。

ブックマーク機能による整理

ブックマーク機能でトラフィックやCPUなどの主要なグラフを分類して管理しています。
拠点・建屋ごとにグループ分けしているため、問い合わせしてきた人の建屋がどこなのかを確認すれば、その建屋の状況を確認して異常の有無や問題の発生したタイミングが一目でわかり、原因特定・対応判断までにかかる時間を圧倒的に短縮できるようになりました。

<採用製品>
System Answer G3

運用支援サービス

明治学院大学

学生が戻ってきたキャンパスに快適なネットワーク環境を提供
～ アフターコロナのシステム環境整備で最適な一手を打つための明確な指標を確立 ～

「なんとなく遅い気がする」の原因を特定

学内にサーバーを置いている職員用グループウェアのユーザーから「接続に時間がかかる気がする」という意見がありましたが、原因の特定には至っていませんでした。G3を導入してから確認してみると、サーバーの負荷が常に高く、メモリーも不足していたことがわかりました。これまで感覚的にしか捉えられなかったシステムの改善すべき点が数値で示されたため、すぐに対処することができるようになりました。

グラフからの周期性から原因を特定

特定のアクセスポイントの接続数が異常に上昇している事象が発生。G3で確認したグラフの周期性から、授業間に移動をする生徒の影響が考えられました。それを踏まえて現地調査をしてみると、講義室のすぐ裏にバス停があり、そこに並ぶ学生達の端末が講義室のアクセスポイントに想定外に接続されてしまっていたことが判明し、迅速に適切な対処を図ることができました。

Web活用による顧客アプローチの変化

「デジマケ女子部」スタート

難しいITの世界をやわらかく紐解くコンテンツ

ソリューションサイトの特設ページでデジタルマーケティング部の女性社員が月に1回、IT業界やアイビーシーの最新情報について発信しています。ITに詳しくない方でも気軽に読めるコンテンツとして、多くのお客様にご好評いただいています。週に3回、noteにてブログ記事も更新しております。

パートナーサイト開設

販売パートナー様とアイビーシーのデジタル接点強化

「商談のスピードアップ」「全国区でのパートナー商談をカバー」「パートナー様へのプッシュ型アプローチ強化」を目的として開設しました。従来は個別で提供していた資料をWeb上でまとめてダウンロードできる他、早期に案件情報を獲得して商談サポートができるよう、登録パートナー様へのフォローもおこないます。

イメージキャラクターの採用

幅広い年代層のお客様にアプローチ

2023年2月より、小泉今日子氏を企業のイメージキャラクターとして採用しました。アイドルのより広い可能性を切り拓いたパイオニア的存在であり、明るい小泉今日子氏のイメージで、性能監視分野の先駆けである当社の「IT障害をゼロにする」をというミッションをアピールしていきたいと考えております。

代表取締役社長
（CEO）
加藤　裕之

取締役副社長
（COO）
小田　成

取締役
太田　祐樹

取締役
（社外取締役）
髙木　弘幸

取締役
（社外取締役）
梶本　繁昌

取締役
（社外取締役）
西田　光志

取締役
（社外取締役）
天野　信之

常勤監査役
山本　祥之

監査役
（社外監査役）
望月　明彦

監査役
（社外監査役）
簗田　稔

株式情報

（2023年9月30日現在）

▶ **発行可能株式総数**　20,000,000株

▶ **発行済株式総数**　5,723,600株

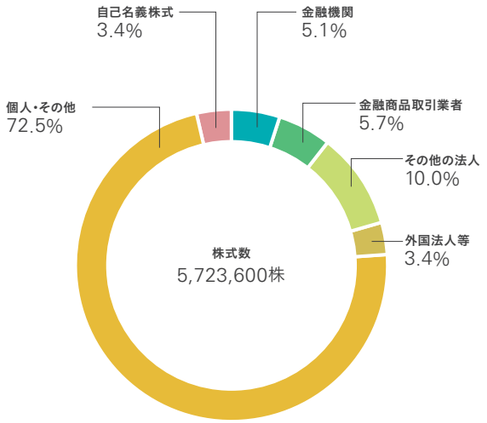
▶ **株主数**　2,534名

▶ **大株主**

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
加藤裕之	2,049,900	37.1
プラスフジ株式会社	500,000	9.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	181,200	3.3
楽天証券株式会社	124,100	2.2
株式会社SBI証券	117,687	2.1
宇高淳郎	87,000	1.6
槇田重夫	86,700	1.6
瀬野陽介	82,102	1.5
村上彰	65,300	1.2
MORGAN STANLEY&CO.LLC　Matthew Berke	62,900	1.1

※持株比率は、自己株式194,159株を控除して算出しております。

▶ **株式分布状況**



株主メモ

（2023年9月30日現在）

証券コード	3920
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
基準日	毎年9月30日
剰余金の配当の基準日	毎年9月30日、毎年3月31日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社

事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 及び電話照会先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711（フリーダイヤル）
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	電子公告によりおこないます。 公告掲載URL：https://www.ibc21.co.jp/ やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載しておこないます。